

朝鮮通信使の

江戸登城

朝鮮通信使の江戸城への登城は、その使行の目的を達成するためであった。つまり、朝鮮国王から託された朝鮮国書と礼單（進物）を徳川將軍に伝達するのである。

幕府は、これを徳川政権の威信を内外に誇示する外交儀礼とするため、朝鮮通信使の江戸登城を華やかに演出するとともに、その日を休日として登城する朝鮮通信使の姿を多くの人々に見物させた。

一方、朝鮮通信使も文化水準の高さを誇示するための最高の舞台であったから、行列の編制、使行員の服装、礼儀や態度などに気を配り、江戸御馳走人に先導・警固されて江戸城に向かって堂々と行進した。また、朝鮮通信使に随行した対馬藩にとっても、その存在感をアピールする場であった。

これを見物する江戸や近郷の村々から駆け付けた人々は、幕府の統制により整然と見物させられたものの、お祭り気分で異文化を堪能した。

また、江戸に登城した朝鮮通信使は、本丸大広間において御三家、幕閣、諸大名が居並ぶなかで、朝鮮国書を徳川將軍に伝達した。その後、三使は大広間で御三家と対面しての饗應、使行員はそれぞれの身分に応じた場所での饗應を受け、江戸御馳走人に警固されて下城した。

朝鮮通信使の

淀川上り

朝鮮通信使の淀川上りは、江戸登城と並ぶ通信使来日の一大イベントであった。朝鮮通信使が乗る川御座船は、金箔や彩色、朱の幔幕などで華麗に装飾された。それに異国情緒たどよう韓服をまとった通信使が乗船し、水上パレードさながらの船行列となるから、好奇心旺盛な大坂やその近郷の人々はこぞって見物に出かけたと伝わる。そのため、淀川の川岸は、朝鮮通信使見物の人々で溢れかえった。

6隻の通信使船で大坂に到着した通信使は、大坂の伝法、のちに木津川河口の難波島附近で通信使船から川御座船などの川船に乗り換え、大坂の中心であった難波橋に上陸した。大坂に5日から10日間程度滞在した通信使は、ふたたび川御座船などの川船に乗り、山城淀をめざして、淀川を上った。

川御座船は西国諸藩が用意したが、正徳元年（1711）の使行から三使乗船と国書船の4艘は、幕府が用意した。多いときは対馬藩川御座船を加えて15艘にのぼり、これに供船が随った。川御座船には、三使、上々官、上官、以酌庵長老（輪番僧）が乗った。中官や下官は鯨船などに乗り、これに日本の役人が乗る川船を合わせると、その数は150艘を超える船行列になったこともあった。

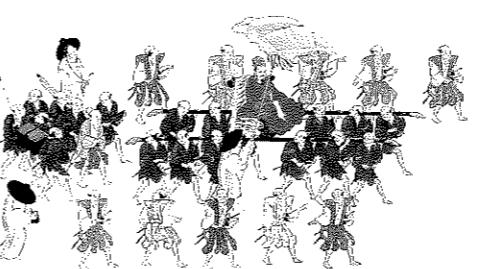
朝鮮通信使と

文化交流

朝鮮通信使は外交使節であったが、朝鮮国を代表する知識人、学者、医家、書家、画家、曲馬師、樂士などが随員として加わっていたことから、次第に文化使節としての性格を強めた。加えて、両国は同じ漢字文化圏であったことから、筆談による意思疎通が可能であったため、儒学、医学、芸術、農業技術など、さまざまな分野において活発な交流が行われた。

朝鮮通信使の来日は、異国人と接する機会がほとんどない庶民にとっても大きな出来事であった。通信使の来日が決まると朝鮮ブームが起き、ガイドブック的な版本や刷り物が事前に刊行された。そして、通信使が来日すると、その寄港地や沿道に大勢の見物人が押し寄せ、好奇に満ちた眼差しで異国人とその風俗を見物した。

朝鮮通信使を見物した人々は、その物珍しさと感動を多くの人々に伝えるため、これを真似た唐人行列や朝鮮山車を祭りに登場させた。それは通信使の通路沿いの地だけでなく、通路から離れた地域においてもみられた。また、朝鮮通信使をモチーフにした土人形や工芸品なども各地で盛んに生産されるなど、朝鮮通信使の来日が日本の庶民文化にもたらした影響は多大なものがあった。



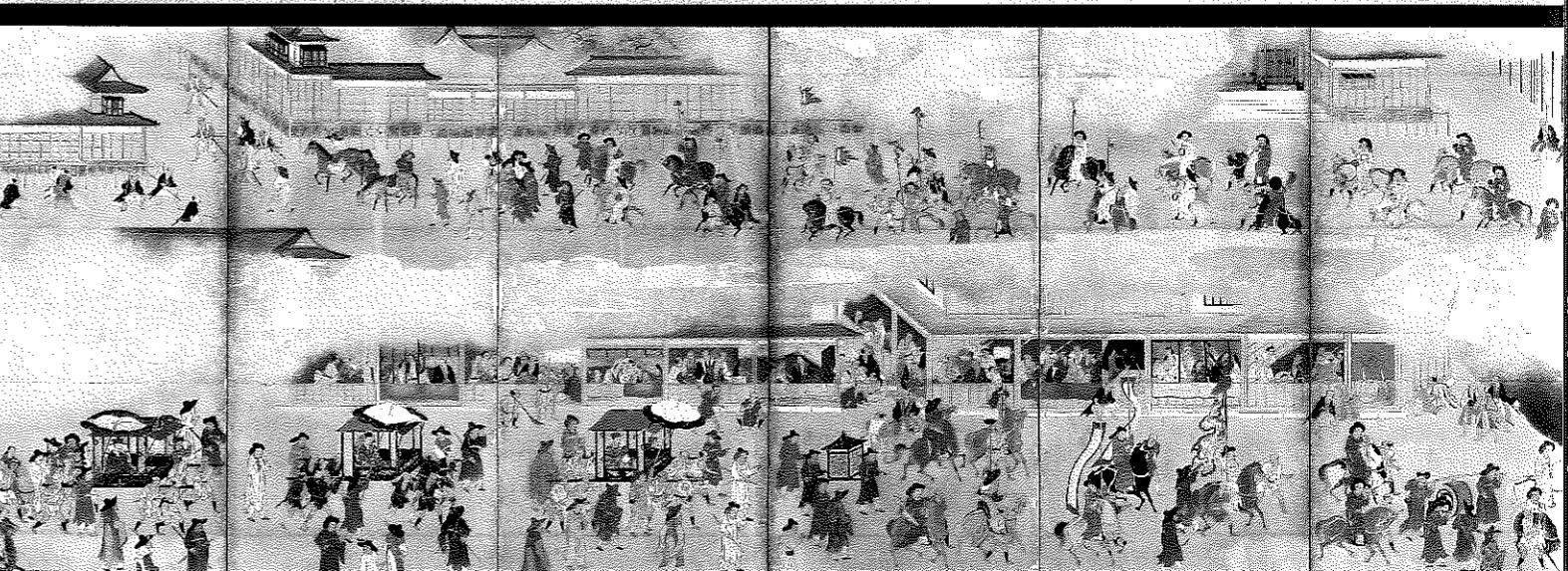
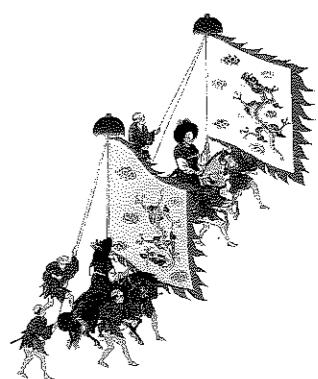
江戸登城・淀川上り・文化交流

朝鮮通信使

「ユネスコ世界の記憶」登録50周年記念特別展

対馬の外交II

2022年
10月15日（土）—12月4日（日）



朝鮮通信使

江戸登城・淀川上り・文化交流



ユネスコ「世界の記憶」
登録50周年記念特別展

対馬の外交II

出品目録

番号	資料名	員数	材質	形状	法量(cm)	ユネスコ登録 文化財指定	所蔵	備考
i 朝鮮通信使の江戸登城								
1	朝鮮通信使歓待図屏風	八曲一隻	紙本金地著色	屏風装	[各隻] 縦166.6 横500.0	ユネスコ 京都市指定	京都市 泉涌寺	
2	朝鮮來幣絵巻	1巻	紙本著色	巻子装	縦35.5 横2178.6		真田宝物館	
3	延享五年朝鮮通信使登城行列図	1巻	紙本著色	巻子装	縦24.8 横552.5	ユネスコ	下関市立歴史博物館	
4	七五三盛付縁出順之絵図	1巻	紙本著色	巻子装	縦26.9 横937.1	ユネスコ 重要文化財	長崎県対馬 歴史研究センター	対馬宗家関係 資料
5	馬上才図巻(朝鮮人曲馬図)	1巻	紙本著色	巻子装	縦28.8 横680.0	ユネスコ 対馬市指定	個人／対馬朝鮮通信 使歴史館寄託	松原一征 コレクション
6	朝鮮国信使絵巻(上巻および下巻)	2巻	紙本著色	巻子装	縦38.0 横811.9 [上巻] 横955.0 [下巻]	ユネスコ 重要文化財	長崎県対馬 歴史研究センター	対馬宗家関係 資料
正徳元年朝鮮通信使進物並進物 目録		106点				重要文化財	山口県立山口博物館	
(1) 進物								
7	①黒麻布(黄照布)	5枚			幅33.0			
	②黄毛筆	19本			長さ27.0			
	③真墨	9丁			縦9.0 横2.8 厚さ0.4			
	④色紙 (青苔紙、雪花紙、雲暗紙)	55枚 (3巻)			縦116.0 横80.0ほか			
	⑤栢子(朝鮮松の実)	1括 (6753粒)						
	⑥硯石	1面			縦22.2 横11.0 厚さ3.0			
	⑦扇子	15握			長さ40.2 ほか			
(2) 進物目録		1通	紙本墨書	まくり	縦34.7 横59.7	ユネスコ		封筒有り
8-(1)	朝鮮信使御記録(県庁伝来旧藩 記録)	13冊	紙本墨書	冊子装	縦23.7 横17.0 ほか	ユネスコ	山口県文書館	
参考 1	朝鮮国信使絵巻(文化度)	1巻	紙本著色	巻子装	縦27.3 横1657.4	ユネスコ 重要文化財	長崎県対馬 歴史研究センター	対馬宗家関係 資料 パネル展示
ii 朝鮮通信使の淀川上り								
9	朝鮮通信使御樓船図屏風	六曲一隻	紙本著色	屏風装	縦137.2 横349.8	ユネスコ	大阪歴史博物館	辛基秀 コレクション
参考 2	正徳度朝鮮通信使国書先導船図 屏風のうち対馬藩川御座船	八曲一隻	紙本著色	屏風装	縦75.2 横510.4	ユネスコ	大阪歴史博物館	辛基秀 コレクション 複製展示
10	正徳度朝鮮通信使上々官第三船 図・供船図	2面	紙本著色	額装	縦79.0 横148.0 [川御座船] 横111.5 [供船]	ユネスコ	大阪歴史博物館	辛基秀 コレクション
11	享保度朝鮮通信使上判事第一船 図・供船図	1幅	紙本著色	掛幅装	縦27.8 横84.6		大阪歴史博物館	辛基秀 コレクション
12	朝鮮通信使川御座船図	1面	紙本著色	額装	縦45.1 横113.2		大阪歴史博物館	辛基秀 コレクション
参考 3	朝鮮通信使川御座船図屏風	六曲一隻	紙本金地著色	屏風装	縦78.3 横251.0		九州国立博物館	パネル展示
13	天和二年信使覚書(樋口家文書)	1冊	紙本墨書	冊子装	縦11.5 横16.7		個人	
8-(2)	朝鮮信使御記録(県庁伝来旧藩 記録)	13冊	紙本墨書	冊子装	縦23.7 横17.0 ほか	ユネスコ	山口県文書館	

番号	資料名	員数	材質	形状	法量(cm)	ユネスコ登録 文化財指定	所蔵	備考
iii 朝鮮通信使と文化交流								
14	雨森芳洲肖像	1幅	紙本著色	掛幅装	縦100.0 横43.0		個人／対馬朝鮮通信使歴史館寄託	松原一征コレクション
15	雨森芳洲肖像	1幅	紙本著色	掛幅装	縦74.6 横42.9	ユネスコ重要文化財	芳洲会／高月観音の里歴史民俗資料館寄託	雨森芳洲関係資料
16	雨森芳洲肖像	1幅	絹本著色	掛幅装	縦107.3 横48.6	重要文化財	芳洲会／高月観音の里歴史民俗資料館寄託	雨森芳洲関係資料
17	金明国筆 無等賛 拾得図	1幅	紙本墨画	掛幅装	縦64.5 横52.8	ユネスコ	下関市立歴史博物館	
18	荷潭筆 古賀精里賛 寿老人図	1幅	紙本墨画	掛幅装	縦42.0 横55.1	ユネスコ	大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
19	金有声筆 樹下人物図	1幅	絹本墨画	掛幅装	縦103.8 横37.0		大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
20	李義養筆 山水図	1幅	絹本墨画	掛幅装	縦133.4 横43.1		大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
21	狩野清真筆 李鵬溟賛 瀟湘八景図巻	1巻	紙本墨画	巻子装	縦30.8 横534.6	ユネスコ	大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
22	宝曆十四年朝鮮通信使正使趙暉 書帖 贈・宗義審	1帖	紙本墨書	手鑑装	縦29.0 横21.6	ユネスコ	下関市立歴史博物館	
23	正徳元年朝鮮人行烈次第	1冊	紙本木版墨摺	冊子装	縦21.7 横15.8		下関市立歴史博物館	
24	延享五年朝鮮人大行列記	1冊	紙本木版墨摺	冊子装	縦23.6 横16.2		個人／対馬朝鮮通信使歴史館寄託	松原一征コレクション
25	文化八年朝鮮人來朝行列之記	1冊	紙本木版墨摺	冊子装	縦18.0 横12.5		下関市立歴史博物館	
26	朝鮮人渡海船之図	1枚	紙本木版墨摺	まくり	縦30.3 横60.0		大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
27	御祭朝鮮人行列之浮絵図 西村重長筆	1枚	紙本木版色刷	まくり	縦29.4 横43.9		個人／対馬朝鮮通信使歴史館寄託	松原一征コレクション
28	別府細工 旗持燭台	1台	鉄		総高27.1		大阪歴史博物館	辛基秀コレクション
29	相良人形 喇叭持ち	1軸	土		総高23.2		大阪歴史博物館	辛基秀コレクション

iv 九州・山口の朝鮮通信使寄港地

参考4	朝鮮通信使迎接所絵図 (土肥家文書)	1鋪	紙本墨書き	折畳装	縦79.0 横168.0	ユネスコ 壱岐市指定	壱岐市教育委員会	パネル展示
参考5	藍鶲図	1鋪	紙本著色	折畳装	縦71.6 横102.0		岩国歴古館	パネル展示
参考6	赤間関信使屋并近辺図	1鋪	紙本著色	折畳装	縦126.8 横256.5		岩国歴古館	パネル展示
参考7	朝鮮通信使船上開来航図	1面	紙本著色	額装	縦60.3 横86.8	ユネスコ 上関町指定	超專寺 上関町教育委員会寄託	パネル展示

v 対馬博物館収集の朝鮮通信使資料

収1	朝鮮通信使写字官金義信書屏風	六曲一隻	紙本墨書	屏風装	[各扇本紙] 縦105.2 橫46.1 [屏風] 縦136.0 橫288.0		対馬博物館
収2	朝鮮通信使写字官李誠國筆語	1幅	紙本墨書	掛幅装	縦18.0 橫51.0		対馬博物館
収3	朝鮮通信使画員 韓時覚筆 布袋図	1幅	紙本墨画	掛幅装	縦47.5 橫26.5		対馬博物館

[注] (1) 会期中、前期(10月15日～11月9日)と後期(11月11日～12月4日)で出品資料の展示替えを行なう。
(2) 前期のみの展示は、資料番号1の右隻、資料番号6、8-(1)、14、15、16、17、18、19、20、21、22、26、28、ならびに参考1。
(3) 後期のみの展示は、資料番号1の左隻、資料番号4、9、10、11、12、13、8-(2)、27、29、ならびに参考2、3。
(4) 適宜、出品資料の展示交換を行うことがあるため、上記に限らず展示していない出品資料がある。
(5) 収1、2、3は、対馬朝鮮通信使歴史館において、11月28日から展示する。